

平成 28 年 11 月 4 日

保護者各位

枚方市立蹉跎中学校
校長 田辺久信

平成 28 年度全国学力・学習状況調査分析結果

1. 実施日 平成 28 年 4 月 19 日（火）
2. 対象 第 3 学年
3. 調査内容 学力調査（国語 A, 国語 B, 数学 A, 数学 B）、生徒質問紙調査
4. 教科についての分析
（各グラフは、一番左が本校、真ん中が大阪、右が全国です）

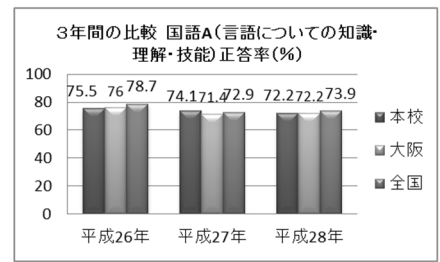
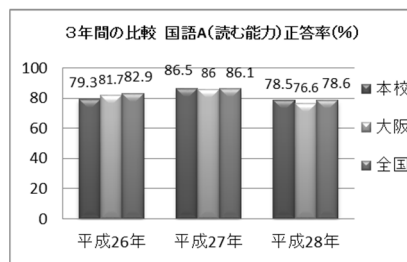
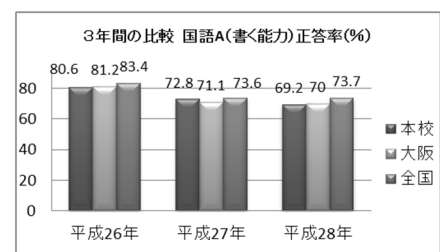
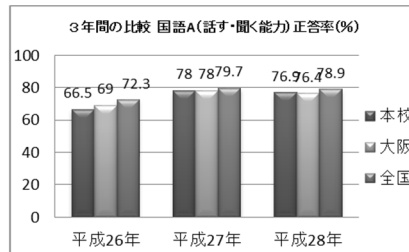
<国語>

① 国語 A（主として「知識」に関する問題）の結果

本校の平均正答数 24.4 問 大阪府 24.3 問 全国 25.0 問（問題数 33 問中）

各領域（話す・聞く能力、書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能）ごとの平成 26 年度から 3 年間の正答率の推移を表しているのが、右のグラフです。

本年度は、「書く能力」の平均正答率が大阪府よりも下回っています。また、昨年度は、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」の領域で、全国の平均正答率を上回っていましたが、今年度は、課題が見られます。



今年度は、課題が見られます。

② 国語 A において、特徴的な問題の例

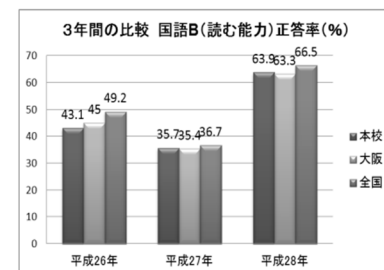
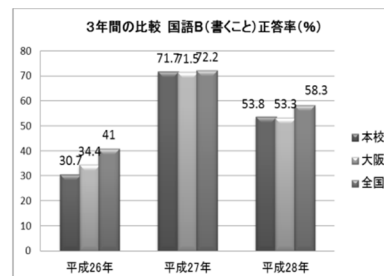
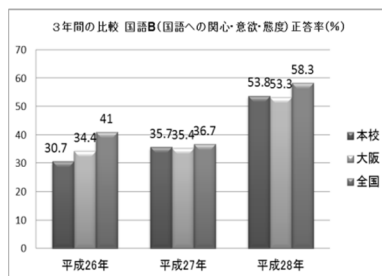
- ・漢字の書き取り、読みは比較的正答率が高く、日ごろからまじめに取り組んでいる成果ではないかと考えられます。「敬う」の読みは、大阪の平均正答率より 5 ポイント下回っていました。
- ・**2**の「弓道」についてパンフレットを作る問題において、全国及び大阪府に比べ平均正答率大きく下回っています。このような、問題形式に不慣れなことが考えられます。
- ・「彼は忙しい仕事の合間を縫って私に会いに来てくれた」の文章の「縫って」を問う問題について、全国及び大阪の平均正答率より大きく下回っています。「付けて」と誤答している生徒が大阪の 2 倍全国の 3 倍に及んでいます。文脈での適切な語句の使い方の定着に問題があります。
- ・「習字」の問題、「古典的な仮名遣い」の問題の平均回答率が大阪及び全国の平均正答率より 5 ポイント以上低く、課題があります。

③ 国語B（主として「活用」に関する問題）

本校の平均正答数 5.7 問 大阪府 5.7 問 全国 6.0 問（問題数 9 問中）

各領域（話す・聞く能力、書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能）ごとの平成 26 年度から 3 年間の正答率の推移を表しているのが、次のグラフです。昨年度と同様に、どの領域についても全国の平均正答率より下回っていますが、大阪府の平均正答率は上回っています。

また、自分の考えを書いたり、理由を示したりする記述問題の無解答が、昨年同様に全国、大阪府と比べて高い割合になっている問題があります。



④ 国語Bにおいて、特徴的な問題例

・ [2]の博物館のちらしの問題で、「～職人の技を見てみよう～」の参加日をちらしから読み取る問題は、全国の平均正答率より 5 ポイント上回っていました。

・ 記述式の問題 ([1]三、[2]三) は、それぞれ全国の平均回答率よりも 4 ポイント、9 ポイント下回っており、自分の言葉で表現して書くことについては課題があると考えられます。

⑤ 国語全般について

「生徒質問紙」によると「国語の勉強は好きですか。」「国語の勉強は大切だと思いますか？」などの問いに関しては、肯定的な回答が全国平均より低い回答率になっています。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか。」の問いに関しては、肯定的な回答が、全国平均よりも高い割合を示しています。しかし、「読書は好きですか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」などの問いは、肯定的な回答が全国よりも低いという結果です。

また、国語の学習方法について問う質問、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」などにおいて、全国の回答より肯定的な回答が多く、自分の考えをまとめたり、それを言葉にする活動が生徒に定着してきていることが分かります。

⑥ 改善の方策

このような結果を受けて、今後は、意味調べや漢字の書き取りをプリント等で練習したり、覚えさたりすることに加え、実際の場面でどのような活用がされているのかを理解するための取組みを行っていく必要があります。

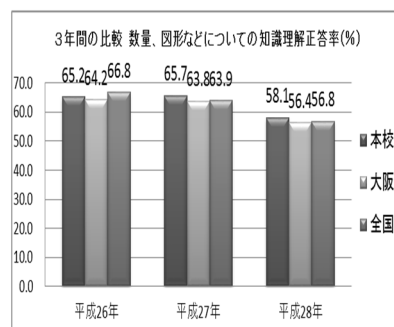
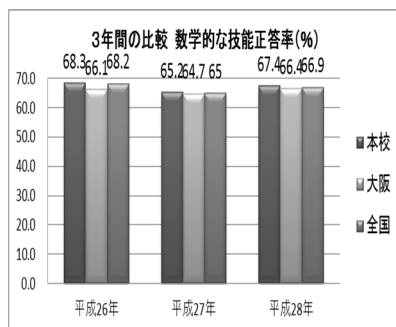
また、今後はさらに 4 人班を活用し、「言葉で伝え合う力」を育む機会を設けること、授業中に使用するワークシートの設問や単元の振り返り、定期テストにおいて、文の読み取りだけにとどまらず、「理由や根拠を示しながら、自分の言葉で表現する」課題や問題に取り組み「自分の言葉で表現して書く力」を育てていく取組みを行っていきます。

<数学>

① 数学A（主として「知識」に関する問題）

本校の平均正答数 22.7 問 大阪府 22.2 問 全国 22.4 問（問題数 36 問中）

領域別で見ると「数学的な技能」「数量、図形などについての知識・理解」の両領域ともに、今年度も、全国の平均正答率より上回っており、昨年度よりもいい傾向にあるといえます。



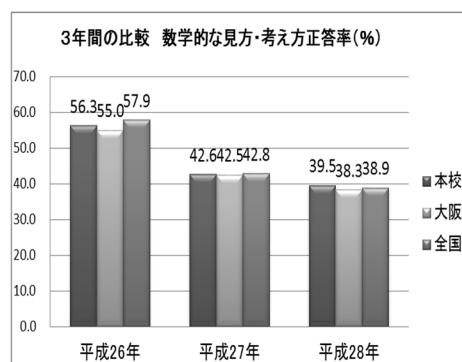
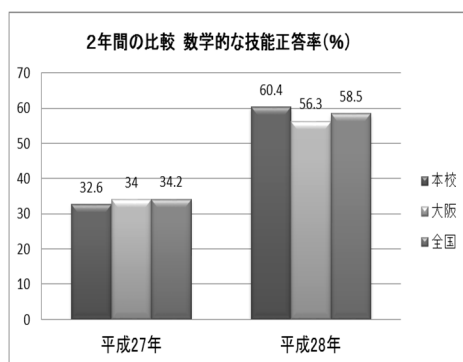
② 数学Aにおいて、特徴的な問題例

- ・「自然数の意味を理解する問題」は、全国よりも14ポイントも上回っています。
- ・**7**の図形の証明問題は、全国の平均正答率より上回っています。
- ・**8**の証明の必要性和意味の理解を問う問題で、全国の平均正答率よりも6ポイント以上下回っており、出題の方法を少し変えるだけで、正答へ導けないことが顕著に現れています。
- ・**10**(3)の関数における、 y の変域をグラフから読み取る問題で、全国の平均正答率よりも5ポイントほど低く、誤答を見ると座標の読み間違いが全国よりも2倍ほどあり、問題をきちんと確認できていないことが分かります。
- ・**12**の統計の問題は、全国の平均正答率よりも低く、特に(1)の「最頻値」を問う問題については、全国よりも15ポイントも平均正答率が低く、意味を理解していないものと思われる。

③ 数学B（主として「活用」に関する問題）

本校の平均正答数 6.8 問 大阪府 6.5 問 全国 6.6 問（問題数 15 問中）

領域別にみると、「数学的な技能」及び「数学的な考え方」について、本年度は、全国の平均正答率よりも上回っており、成果が出ています。（「数学的な技能」については、平成26年度のデータが無いのはその領域についての出題がありませんでした。）



④ 数学B において、特徴的な問題例

- ・**3**の1次関数の問題で、グラフの傾きの解釈が全国の平均正答率よりも6ポイント上回っています。
- ・**4**の証明問題も全国の平均正答率よりも6ポイント上回っています。
- ・**5**(2)の相対度数を求める式を書く問題は7ポイント全国の平均正答率よりも上回っています。
- ・**2**(2)の正答率は全国的にも低いのですが、本校は、全国の平均正答率よりも3ポイント低くなっています。誤答として、そもそもこの関数は、反比例であるので、比例であると考えている生徒が多かったことが挙げられます。

⑤ 数学全般について

生徒質問紙では、「数学の勉強は好きですか」「数学の授業がよく分かりますか」「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の問いに対する肯定的な解答は全国平均に比べて高くなっています。しかし、「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学ができるようになりたいと思いますか」「数学の問題の解き方分からないときは、あきらめずに色々な方法を考えますか」などの問いに対する肯定的な回答は全国平均に比べて低い値です。また、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」の問いに対する肯定的な回答は全国平均より下回り、学習が実生活に結びついていない実態もあります。

また、数学の学習方法として、「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」「数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか」「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」などの問いについては、肯定的な回答が多く、数学の学び方として、一定の形ができていることが分かります。

⑥ 改善の方策

理由を説明したり、数学的に表現したりする問題に正答率が低い問題があり、ただ単に問題を解くだけでなく、4人班を活用してグループで考えさせ、気付いた事を発表させる等して数学的表現の育成に努めています。

また定期テストの中でも答えだけを問うのではなく、その過程や考え方を問う問題を出題し、表現する力を養わせたいと考えています。